



奨学制度によって学校に通えるようになり、村には子どもたちの笑顔が増えた

地雷の恐怖から村人を守る

1990年代、数十年にわたる内戦が終結し、復興に向かって歩み出したカンボジア。しかし、一步一步、着実に発展する都市部とは対照的に、地方は現在も多くの地雷が残り、開発から取り残された状態にある。昨年度だけで、地雷の犠牲者は266人※1。数年前と比べると半数近くにまで減少したが、地雷埋設地域にはいまだ貧困層が多く、国家の重要課題にもなっている。

NPO法人テラ・ルネッサンスがJICA基金を活用して支援する、バットンバン州カムリエン郡オッチョンボック村もその一つ。同州を含むカンボジア北西部のタイ国境地帯は、内戦が最後まで続いた地域。クメール・ルージュ※2の支配地域でもあったことから、地雷の撤去が遅れ、今でもおびただしい数の地雷が埋められている。

「人々は、村に地雷があることを誰よりもよく知っています。でも、ほかに住

テラ・ルネッサンスの自己資金から融資を受け、キャッサバをはじめとする農作物の栽培や家畜の飼育などを行った。「悪天候による不作の影響もありましたが、村人たちの意識も高く、返済状況は順調です」と江角さんは言う。

また村銀行では、毎月10000リエル（約0.25ドル）を各家庭から集め、健康保険として活用している。ここから、住民組織のメンバーの病気やけがなどの治療費、死亡したときの葬式費用などが支払われることになっている。自分の貯蓄が、村の誰かのために使われる。ポル・ポト時代の傷跡が残るカンボジアの村に、村銀行を通じて、助け合いの精神が育ちつつある。

さらに、住民組織では学校に行けない子どもたちのために奨学制度を設置。制服や文房具を支給している。この制度により、これまで、30人が学校に行けるようになった。うち2人は、以前は親がいくら言っても学校に行こうとしなかった。「おそらく制服や文房具がなければ、学校へ行くのが恥ずかしい」という思いがあったのだと思います」と、住民組織の副リーダー・トリー・ソークンさんはその効果をうれしそうに話す。

そして最近、新たな試みが始まった。村にため池10基を掘削し、魚の養殖プロジェクトを開始。4月初旬には稚魚をため池に放流し、7月ごろには販売を開始する予定だ。江角さんは、「魚は、タ

地雷が埋められた地域を救う村落開発を

内戦中に埋められた地雷が、いまだ貧しさの根源となっているカンボジア・バットンバン州。一日も早く、人々が貧困から脱却できるよう、NPO法人テラ・ルネッサンスは住民の生活向上支援を続けている。



住民組織の取り組みは、村人たちの話し合いによって決まる



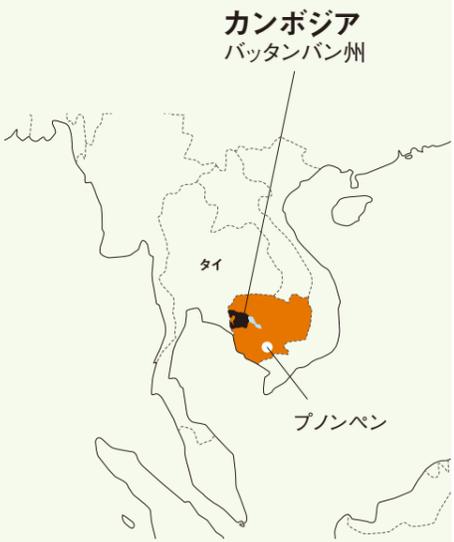
イにも輸出できるほど市場の幅が広い。順調にいけば、かなりの副収入が期待できるのでは」と展望を述べる。それ以外にも、有機農業やキノコ栽培などのワークショップを行い、村の自立に向けた方法を模索している。

「すぐに手を差し伸べるようなことはしない。基本的には、住民組織のメンバーが話し合い、問題を解決していく姿勢が大切だと考えています」と江角さん。地雷の恐怖から抜け出し、明るい未来に向けて村人たちは力強く歩み始めている。

※1 2009年4月、カンボジア地雷対策センター発表。
 ※2 正式名称はカンボジア共産党。ポル・ポトを指導者とする反政府組織。



現地の地雷撤去団体のスタッフと、地雷に関する情報交換をする江角さん(左)。地雷埋設地域の支援を安全に行う上で重要な業務の一つだ



む場所がないのです」と、カンボジアでプロジェクトを統括する江角泰さん(えすみた)は話す。しかし、どの場所に地雷が眠っているかは、誰にも分からない。毎日が、恐怖と隣り合わせの生活。耕作中に、地雷を踏んでしまう人もいたという。

地雷による事故を確実に減らし、村人たちの生活向上につなげるためにはどうしたらよいか。江角さんたちは、地雷撤去作業と同時に、地雷埋設地域の村落開発に焦点を当てた協力を開始。住民組織を通じて村が丸となり、地雷被害者を持続的にサポートしていくための仕組みづくりを進めている。

地雷埋設地域に持続的な生活向上を

まず住民組織が導入したのが、マイクロレジット制度。「村銀行」を設立し、貧困層の家庭に小額の資金を融資するシステムだ。昨年10月から3月にかけて、住民組織のメンバーである100家族のうち、90家族がJICA基金、10家族が



ため池の状態を確認する村銀行の担当者。10家族でため池1基を管理する

あなたの小さな一歩から始まる国際協力 世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp>